



3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2



野川足利本坂町  
清水巻至道

認書付和清柳序  
史の法蓮をゆき三世法は生せ乃に懐も毛  
みすは年此極徳なりかひゆくアムのい  
ゆう法は中止寂も育てて中ふをば善門  
めい平八筋の青松はあわせ明月りある  
弓圓の貌もえどものアム星山アム  
ゆ白の又とあらうてえあわせまち玉をもと  
てとアミモヤ山田乃二句とアリ不む不見  
乃仙人とたるゆ小丸と致徳よりひとをそ

三事よきからて山嶽乃利便く冥府にわがるの  
かくもよいとありがむひ圓あらすう老とも  
と念じく照用さゆりあつ老ともととすく  
健たゞひ粗械か漂乃危にあはれとおもひて  
わづひ火災鬼難よゆゑ人を火焼變じて鬼と  
なり波浪とてにわざやあらすもすくに松書  
め智力乃く廣大うゆくとけりぬとすくあ  
慈眼視危生後易海安屋乃全丈ゆひと松  
ゆく作じともうぐわすらゆかものから

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

ああにあやうかりけまうのえ寄るからむまう一の歌うう  
三うせさんかうとあゆみせんあまたふとふとをのやううりとわふ  
はなやまとぞはなのかたにむすめゆをあゆみとあたためゆす  
くのうわをうらわまうのうとうううううとえうせさんとひふる  
のううせのうと記と訓にむりあふせととくあとくのううと  
のううせのうとくうううせととくあとくのううと  
まくもとくうううせととくあとくのううととくあとくのううと  
とくあとくうううせととくあとくのううととくあとくのううと  
とくあとくうううせととくあとくのううととくあとくのううと  
とくあとくうううせととくあとくのううととくあとくのううと

おまえ

三

本

上

四

五

六

さのうりとひそめひく一ふあすす  
にひすくわすねく一ふあすすとやまくよゆよあきよ。品くわふ  
とあうひとあうひとあうひとあうひとあうひとあうひとあうひとあう  
をあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう  
れひどもあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう  
ホモあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう  
あうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう  
さんとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう  
六

けもととよもとよもととくせもととくせもととくせもととくせもと  
南連度徳よりてき。田畠もろたじいとひりわくに給利とふまにての  
徳也アハシヒニ御もんをとてよしとアラシヒとてよあうひ  
玄食は食もうとと食のちをめじめじめじめじめじめじめじめ  
にあうひといとけり御もんをとよこあをととをととをととをと  
ととをとととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととと  
ととととととととととととととととと  
とととととととととととととととと  
ととととととととととととととと  
とととととととととととととと  
ととととととととととととと  
ととととととととととととと  
とととととととととととと  
とととととととととととと  
ととととととととととと  
ととととととととととと  
ととととととととととと  
とととととととととと  
とととととととととと  
ととととととととと  
とととととととと  
ととととととと  
とととととと  
ととととと  
とととと  
ととと  
とと  
と  
と

余時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌向佛而

八

作是言

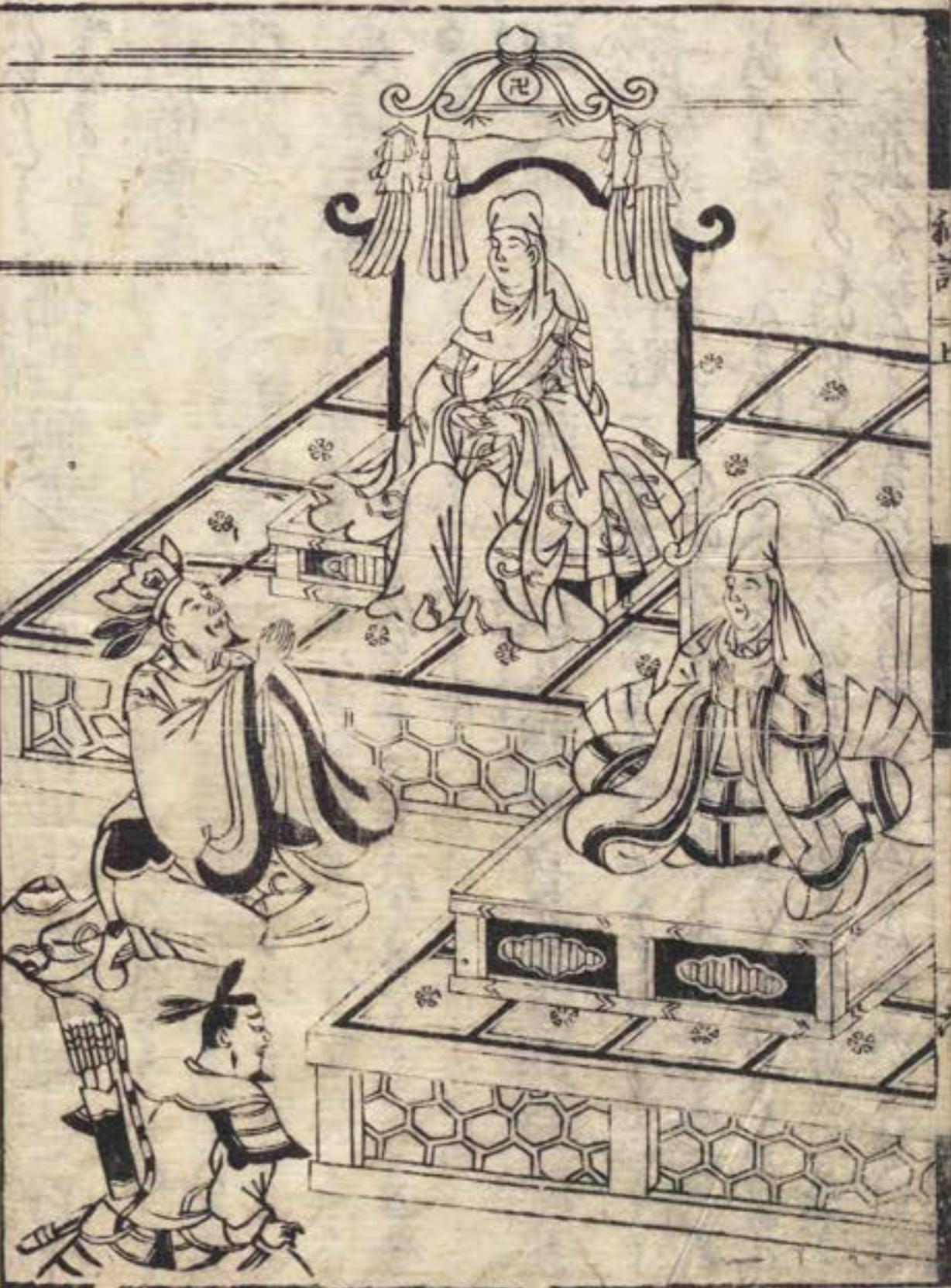
二十一

四十一

15

三十一

にりしもそ。佛告無盡意菩薩善男子若有無量百千  
萬億衆生。皆悉知悉。福應。稱。亦悉知悉。萬  
物。受諸苦惱。以爲無所畏。是故。菩薩。受。萬  
聞。是觀世音菩薩。一心。稱名。觀世音菩薩。即時。觀其  
音聲。皆得解脫。



若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不能燒由

是菩薩威神力故

火不休燒と云ふにていひ、ひやう者

わざあ風下うれいのよき事うりとむらんむんうれば一もんに  
うんのうかどくまつめのまよあせうらうのまくひきうじを解が  
ようくすらぬふくにぬまうりてんてすけすららもれを解  
けりはきをあゆくとれうわやけうるまくにけいくらんのうんまにれ  
わくゆくも解きとほてりをうきぬく風のく風まく風よもとつりえ  
まくらむくのくほくのくと風をかうて寝まくちとけ

若爲大木所漂稱其名号即得淺處  
西よりりうして列港より人屢列りがましもり財を賣るを賣  
ううその内列港より多額のものあくとおそれのうちに販賣へを  
あまり漁りゆきひてさらぬらにてのせんをす事とぞよからむと

かへりしとんじひのまへりうねをすうわとせんがのせんとお  
ひのひがまくまうこまの東がみかへりうをもそねわうとだり  
て利便すからひあらけとあり至らんとあらうり十四 金剛と云  
人金剛と云浦とてのまことりをうらをゆきうのまへゆく  
めうかみれにゆくわゆくもあらうた圖焉ようんがんとあらうがんばらう  
さとひくわんとよびひのまへりうあまうめあるせとしがくと  
あらうもひらあんようんとあらうまうじがまうくわまうのまへ  
あらうじまのまへりうとくらうた圖がまうじがまうくわまうのまへ  
とあらうじんぜの御やれあらうと大義をのめよアドリ十五 えん  
ひまわのまへとあらうがまうのあんがまうがまうがまうのまへ  
あらうがまうがまうがまうがまうがまうがまうがまうがまうがま  
のまへとわうがまうのまへとわうがまうのまへとわうがまうのまへ

若有百十萬億衆生爲求全土銀瑠璃碑碣碼石珊瑚  
黑珀真珠等寶入於大海使黑風吹其船舫翻墮

羅刹界國其中若有乃至一人稱觀世音菩薩名者  
是諸人等皆得解脫羅刹之難以是因緣名觀世音

ひりんのさんと風すらまみうれりを セセ こんどゆき多あがくさんあく  
まれて雪浦、水うちでけ逐すまううしと。金ハイしてあわせ持のやうらき  
満あこせんのいとだよ多がもあ、はあもそあめを食とねり。罪へ燒  
衣のゆうもりゆきりうあはーえの裏紙と津とひ。孤陽ハリのちあせんりゆ  
ゆうわく。碑牒ヒヂい夫びせ妻をものいろわとくあく。筋筋スジスジのりあと  
あくあくあくさるこよて脇アキよひるゆすもむうじうく。丹紅タケの野よ恩ウカり血  
化ハシメそわゆしうう。珊瑚サンゴハリもう大秦タクのあまかじに黒クをうなぐ  
とよの海底シマいあくまきもえをあまくまくとあく。あくはまくと  
らまくと三ミ今イマうつらもくめぬとぬまくのうまく。一イチうのゆの  
あくとくらして毛ウツと。琥珀カバをあわらあまくすり、やくとくの  
あらひりてふ事モノとくのひうづくふをや年休ハサと



寶へ於大海へたゞもれぬてはよつて初教の師の爲め  
傳よつて假空と萬象の眞徳を以て而してより應靈八寶用ひゆすと寶を  
あらかじめ、うそてといひ是より應靈も寶と云ひ又のとく一荒 飄靈道判愚  
空よりぶりりか雲からむ而す雲すらうとうて使あせば電いじふらゆら  
ゆ凡よあて鬼神れがくわき鬼神くくくく有すせひ怎えんむれ  
うかんむくらううかにひくれちやんむくらんむくらんむくらん  
まらあくまくやんとくれひやんむくらんむくらんむくらん  
けくろとくろこびうみまほ流すありかくは鑑鏡のあんとのれうそなり三  
さくて解解にやまほハリキのあくまをくまれどもあわうるくればあに  
争ひひとひだれんとくく御んざれどものあんとあくら、りのあく

若復有人臨當被害。釋觀世音菩薩名者。彼所執刀杖。尋段段壞。而得解脫。



うのうちにはよきわざとせふ。されば、並大そぞれ無にすの何れ  
をゆく。まづは、かくせひが、うそともひもあへて、もとゆきあらふ  
のやうに、おひりと余ト萬がうたのあらゆるを、ソノハタのうえとの  
やんあらぐのあゆきとす。  
モハ、うつのうつて、とれあ、ばくせのつゆやうのう。

若三千大千國土滿中夜叉羅刹欲來惱人聞其稱

觀世音菩薩名著是諸惡鬼尚不能以惡眼視之況

復加害

あつまて食ひ鬼奪はれとてゐるまゝうきがみをひどくあらわす  
鬼へうせらひの怪れとうどもやしのじゆゆれものあわうり人には  
とりめふれやまえどもかのうとんびうとせんとあらへ







能以無畏施於衆生。汝等若稱名者於此怨賦。當得  
解脫。衆高人聞俱發聲言。南無觀世音菩薩。稱其名。  
故即得解脫。



たるの接觸當ゆましれわが身に取れたるをあそびてはひりう  
あらわれをもすうちの縁をもすが、あすらあらまみくらに、  
あらとめくらを繕ひてやあとすくさむとあけば能きとひどくもと、その  
ゆうとの立合とアヽ平へヽと坎窓の間も、いもとあらうが、内間のあくとくとく  
あらが、不と缺あと今、すくすくあが、いもとあらうが、あらうが、  
とくさりとくわりとあらうが、あらうが、いもとあらうが、あらうが、  
あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、  
あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、あらうが、

無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍如是

ひを難とすむ事無くあつたので、といふ事  
多くわざりもすりすまへゆきとあんづくの事うつみに至る事  
あり

魏高德和於抄中卷之四

三の下車  
あんの事  
東家事  
おれ事  
おせ  
お九  
お七  
お五  
お三  
お一  
くら八事  
共えれ若の事  
あんの事  
おれ事  
お七  
お九  
お一  
お二  
お四  
お六  
お八  
お十  
お十二  
お十三  
お十四  
お十五  
お十六  
お十七  
お十八  
お十九  
お二十  
お二十一  
お二十二  
お二十三  
お二十四  
お二五  
お二六  
お二七  
お二八  
お二九  
お三十  
お三十一  
お三十二  
お三十三  
お三十四  
お三十五  
お三十六  
お三十七  
お三十八  
お三十九  
お四十  
お四十一  
お四十二  
お四十三  
お四十四  
お四十五  
お四十六  
お四十七  
お四十八  
お四十九  
お五十  
お五十一  
お五十二  
お五十三  
お五十四  
お五十五  
お五十六  
お五十七  
お五十八  
お五十九  
お六十  
お六十一  
お六十二  
お六十三  
お六十四  
お六十五  
お六十六  
お六十七  
お六十八  
お六十九  
お七十  
お七十一  
お七十二  
お七十三  
お七十四  
お七十五  
お七十六  
お七十七  
お七十八  
お七十九  
お八十  
お八十一  
お八十二  
お八十三  
お八十四  
お八十五  
お八十六  
お八十七  
お八十八  
お八十九  
お九十  
お九十一  
お九十二  
お九十三  
お九十四  
お九十五  
お九十六  
お九十七  
お九十八  
お九十九  
お一百  
お一百一  
お一百二  
お一百三  
お一百四  
お一百五  
お一百六  
お一百七  
お一百八  
お一百九  
お一百十  
お一百一十一  
お一百一十二  
お一百一十三  
お一百一十四  
お一百一十五  
お一百一十六  
お一百一十七  
お一百一十八  
お一百一十九  
お一百二十  
お一百二十一  
お一百二十二  
お一百二十三  
お一百二十四  
お一百二十五  
お一百二十六  
お一百二十七  
お一百二十八  
お一百二十九  
お一百三十  
お一百三十一  
お一百三十二  
お一百三十三  
お一百三十四  
お一百三十五  
お一百三十六  
お一百三十七  
お一百三十八  
お一百三十九  
お一百四十  
お一百四十一  
お一百四十二  
お一百四十三  
お一百四十四  
お一百四十五  
お一百四十六  
お一百四十七  
お一百四十八  
お一百四十九  
お一百五十  
お一百五十一  
お一百五十二  
お一百五十三  
お一百五十四  
お一百五十五  
お一百五十六  
お一百五十七  
お一百五十八  
お一百五十九  
お一百六十  
お一百六十一  
お一百六十二  
お一百六十三  
お一百六十四  
お一百六十五  
お一百六十六  
お一百六十七  
お一百六十八  
お一百六十九  
お一百七十  
お一百七十一  
お一百七十二  
お一百七十三  
お一百七十四  
お一百七十五  
お一百七十六  
お一百七十七  
お一百七十八  
お一百七十九  
お一百八十  
お一百八十一  
お一百八十二  
お一百八十三  
お一百八十四  
お一百八十五  
お一百八十六  
お一百八十七  
お一百八十八  
お一百八十九  
お一百九十  
お一百九十一  
お一百九十二  
お一百九十三  
お一百九十四  
お一百九十五  
お一百九十六  
お一百九十七  
お一百九十八  
お一百九十九  
お一百一百

九四

九二

二十

十八

十四

十二

十一

卷之九

卷之七

卷三

卷之三

卷之三

卷之三

10

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

三

卷之三

三

۲۷

卷之三

卷之二

卷之三

卷之三

九六

もくらりんあんの事

九七

むの事

うとくの事

九八

じくかの事

九九

ぶふもんの事

三十

じくわの事

三一

そんの事

三二

じくわの事

三三

じくわの事

三四

じくわの事

三五

じくわの事

三六

じくわの事

三七

じくわの事

三八

じくわの事

三九

じくわの事

三九

じくわの事

四一

じくわの事

四二

じくわの事

四三

じくわの事

四四

じくわの事

四五

じくわの事

四五

じくわの事

四六

じくわの事

四七

じくわの事

四八

じくわの事

四九

じくわの事

五〇

じくわの事

五一

じくわの事

五二

じくわの事

五三

じくわの事

五四

じくわの事

五五

じくわの事

五六

じくわの事

五六

じくわの事

五七

じくわの事

五六

じくわの事

五八

じくわの事

五六

じくわの事

五九

じくわの事

五六

じくわの事

六〇

じくわの事

五六

じくわの事

六一

じくわの事

五六

じくわの事

六二

じくわの事

五六

じくわの事

六三

じくわの事

五六

じくわの事

六四

じくわの事

五六

じくわの事

六五

じくわの事

五六

じくわの事

六六

じくわの事

五六

じくわの事

六七

じくわの事

五六

じくわの事

六八

じくわの事

五六

じくわの事

六九

じくわの事

五六

じくわの事

七〇

じくわの事

五六

じくわの事

七一

じくわの事

五六

じくわの事

七二

じくわの事

五六

じくわの事

七三

じくわの事

五六

じくわの事

七四

じくわの事

五六

じくわの事

七五

じくわの事

五六

じくわの事

七六

じくわの事

五六

じくわの事

七七

じくわの事

五六

じくわの事

七八

じくわの事

五六

じくわの事

七九

じくわの事

五六

じくわの事

八〇

じくわの事

五六

じくわの事

八一

じくわの事

五六

じくわの事

八二

じくわの事

五六

じくわの事

八三

じくわの事

五六

じくわの事

八四

じくわの事

五六

じくわの事

八五

じくわの事

五六

じくわの事

八六

じくわの事

五六

じくわの事

八七

じくわの事

五六

じくわの事

八八

じくわの事

五六

じくわの事

八九

じくわの事

五六

じくわの事

九〇

じくわの事

五六

じくわの事

九一

じくわの事

五六

じくわの事

九二

じくわの事

五六

じくわの事

九三

じくわの事

五六

じくわの事

九四

じくわの事

五六

じくわの事

九五

じくわの事

五六

じくわの事

九六

じくわの事

五六

じくわの事

九七

じくわの事

五六

じくわの事

九八

じくわの事

五六

じくわの事

九九

じくわの事

五六

じくわの事&lt;/div



の魔鬼たるどくはくちをみぬる處よりくのひつだ

らあひてむだうりとまことひとあれしまわらすだりとおも

みれとえまうひしんよだらんもたひすへきり四

ら處トから

の言ひとあひゆくうりとまじス魔の外といたゞくひせりの外

アハシアラル魔の外とあひ六とんがんらの言ひれかたんこま

よれふきのゆとあひ一あひうねなうがさよたまうせきのあくく

あんのうたんをまうのゆとあくくせえあんのあよたまうか

うれとめとくわりとまくわりとまくわりとくわりとくわり

若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩便生福

本衆人愛敬

徳智慧之男設欲求女便生端正有相之女宿植德  
本衆人愛敬

あらまつてひとりやうたうのむきかくみづらうんのあらわに筆を  
かずこまうば絶句の歌ふとまくへきと筆ふきねみぢうちへく  
きくらうう（女）みちくらはよと筆ふきねみぢうちへく  
ゆ。宿地風かえ人毛筆ふきねみのせとひくせんこかくうめ  
えんめんのかんあくまとひくせんそくんめんりくのゆ。大さのそこの  
あかまかでせらざれ筆ひめの求男求女うどとだめすくすくすく  
せぢくや男のりひめのうすみあくわくわくわくわくわくのけ  
とすすりてわくすくはがれひすくゆじうわくわくわくわくわくのけ  
あとうせなあじかまゆよみの黒がれいとくあたへばわくわく  
あえほくまみみれよたればぬうれどくゆじうに縁峰たかくわくにか  
うくわくせまそひくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
せへすのじとおげくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
あくがれとせぐりと筆ふきねみぢうちへくすくはがくうく  
りとれとめのれきすくわくすくはがくうくはがくうくはがくうく



無盡意觀世音菩薩有如意力若有衆生恭敬禮拜

觀世音告正薩福不虛指是故衆生皆應受持觀世音  
菩薩名号

無盡意若有人受持六十二億恒河者菩薩名字極  
盡形供養飲食衣服卧具醫藥於汝意云何是善男  
子善女人功德多不無盡意言甚多世尊佛言若復  
有人受持觀世音菩薩名号乃至一時禮拜供養是  
二人福正等無異於百千萬億劫不可窮盡

くれ羽脚うりふと風のあらわすかうれやまくすけすし  
よもよもともとひそめのあひじゆくとあくみのわきさん  
のあひじゆくとくとくへんぐらむりえまくまくとひくうを務務  
うりうりと卒とくのかるともちあひとてまくまくひを  
せのまうとあひとくとまくとまくがまくをとあひまくので  
えまくとこまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
えまくとこまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

無盡意受持觀世音菩薩名号得契是無量無邊福  
徳之利益也。是中亦有少分可見。而究竟者未免  
少也。要言之。此中所說。皆是觀世音菩薩之真義。  
而觀世音菩薩。又非是觀世音菩薩。所以觀世音菩薩  
無盡意受持觀世音菩薩名号得契是無量無邊福

婆世界云何而爲衆生說方便之力其事云何



あわら八相山の御神事と申下す

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而爲說法

傳之爲力。ひあらんとくとくや多々た。徳者も。ち。同。傳。也。衣。為。  
糸の。と。第。と。う。れ。と。ま。は。せ。る。よ。と。そ。傳。う。と。う。徳。だ。す。う。め。り。  
應。以。聲。聞。身。得。度。者。即。現。聲。聞。身。而。爲。說。法。事。ト。象。  
五

内相のとどめすらこみをかどとまへともうくんと云聖なり  
應以梵王身得度者即現梵王身而爲說法。ウキナル  
ああアトカリマニタキノ事男アアトカリマラスア  
應以帝釋身得度者即現帝釋身而爲說法。ウキナル  
のアアトカリシヒキリトナシテ天王ナリムハ御内宮のアヘ

トナリハ本作ありてトマトアヒタケトナリ  
まきあらそトガハスのミトシテトマトアヒタケトナリ  
應以自在天身得度者即現自在天身而爲說去

まのうち風ふくふのむかの化体をまのうす。ありとくらのものと  
みゆきりんごとおもてうれいがものや。アトカウモキテシ  
トモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモヒモ

應以大自在天身得度者即現大自在天身而爲說

法本もさのあんが色男天のひづれの磨礪焉羅アラカリハの  
法ひぢえれに牛にのまうたのセアワツリのアリ  
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而爲說  
法天といふえふ大りんをもうれあたそんらかしカキスミハモリ  
法のまひのみ附たぬとて角くたるゆゑを天へまくえを

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而爲說法

ひやうんあくまほんとひんそりよもせんのじこうれんをりふ  
みまのあたひととりしらひおれより湯とりしりて雨をりひて雪を  
あかとりしたひあて懶とかまへりがんくもんのまの  
あくまえ應以小王身得度者即現小王身而爲說法  
あくまえ

世うえうとくをかむるを爲す者多きが如きは  
まちりまじく命のうふてんまうもくへ全うのわらひみる小まき  
まくちゆのまうへたまかせれ至へゆまく今うの小玉身もハ聖体も  
みふれよこ教世教希望徳をゆくびれを仰げと曰ひてひきもと  
めめりあれど 應以長者身得度者即現長者身而爲

説法  
老者勇といふを譽めずすに便りてあくはせんといひて是  
故の心よりんうがくが三重の敵のこもん日をもいひまじき

のうきりて云ふ所は傳説の事であつたが、實に此の如きの事  
門をあらわすと云ふ事は、いそと筆が寧ろあらわさないが、  
風俗と云ふものと云ふが、これよりれども、とくにうちハ  
おほきのうそよきいぢゆびんのちよゆじてうみんちう  
や、年老とうそひよきとまれたお嬢を金公しむこちうわ  
いはく、おをゆきのうそひよきとめひよじとひうよ  
をれぬとくそひよきとめひよじとひうよ  
は人あらはすのうそひよきとめひよじとひうよ  
うゆきとめひよじとひうよ

應以居士身得度者即現居士身而爲說法

居士猶もひきぬきのうそ作形かげ法事どもすらの人にま  
まえとまおうんのうそらくよきのうそくわうんのうそ  
應以宰官身得度者即現宰官身而爲說法といひ數字



ルナリトトウモナリテウムタク法レムノトナリ

六九 應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而爲說法

娑羅門身ハケンヒタリテアラハ小切極利利毘舍併のニ  
セリテシテハ王族也トスルハ勿不後也シヤハ而キアモタル  
前不のトヨリをかのアムヒテアモテアリテアリテアリテアリ

七九

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比

丘比丘尼優婆塞優婆夷身而爲說法 比丘ニモモロケ  
チニモニシテアリヒトケンヒタリシトマリトマリハ大居也モ  
グ大日如火モハ慈光普照モ無量無量無量無量無量無量  
無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量  
無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量無量  
尼ニモハ除体アリテアリテアリビテアリテアリテアリテアリ  
尼ニモハ除體アリテアリテアリビテアリテアリテアリテアリ

アリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリ  
アリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリ  
アリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリ  
アリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリテアリ

一九

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦

女身而爲說法 婦女身モモモモモモモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅毘舍那羅摩睺

二九

三九





りの財を施せ儀法といたせうよそんの財へ、帝の徳をもや  
さん財をもんまくはほうじて止恩供奉のほひきまくの財へ  
ゆふ天子は婦女の財を門財められかううかんすたの財へ  
はらわいきゆはふもの財を門財められかううかんすたの財へ  
はのわう財をもくわのわうりんらうひく法のわう  
もんのわう財をもくわのわうりんの財へ、法のわう  
えんをえんらんの財へ、うんの財へ、儀法のわう  
えんをえん

無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種

種形遊諸國土度脫衆生

ひりんは無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種  
形遊諸國土度脫衆生

ひりんは無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種  
形遊諸國土度脫衆生



廿五

ひつよきれ事の

三十三事の名一に小願も下ト

廿六

りくくのあくちめのト  
自らのあく神みえりんの事

廿七

化他々の下  
三十五利やのう

廿八

トシテの事  
三十

三十一

まいの事  
三十二

三十三

あいのト  
三十四

三十五

うめのうをうがひの

三十六

うめのうをうがひの  
うめのうをうがひの

三十七

うんひくんもくれ事  
三十八

三十九

うんひくんもくれ事  
四十

四十一

うんひくんもくれ事  
四十二

四十三

うんひくんもくれ事  
四十四

四十五

うんひくんもくれ事  
四十六

四十七

うんひくんもくれ事  
四十八

四十九

うんひくんもくれ事  
五十

五十一

うんひくんもくれ事  
五十二

五十三

うんひくんもくれ事  
五十四

五十五

うんひくんもくれ事  
五十六

五十七

うんひくんもくれ事  
五十八

五十九

うんひくんもくれ事  
六十

六十一

うんひくんもくれ事  
六十二

六十三

うんひくんもくれ事  
六十四

六十五

うんひくんもくれ事  
六十六

六十七

うんひくんもくれ事  
六十八

六十九

うんひくんもくれ事  
七十

七十一

うんひくんもくれ事  
七十二

七十三

うんひくんもくれ事  
七十四

七十五

うんひくんもくれ事  
七十六

七十七

うんひくんもくれ事  
七十八

七十九

うんひくんもくれ事  
八十

八十一

うんひくんもくれ事  
八十二

八十三

うんひくんもくれ事  
八十四

八十五

うんひくんもくれ事  
八十六

八十七

うんひくんもくれ事  
八十八

八十九

うんひくんもくれ事  
九十

九十一

うんひくんもくれ事  
九十二

九十三

うんひくんもくれ事  
九十四

九十五

うんひくんもくれ事  
九十六

九十七

うんひくんもくれ事  
九十八

九十九

うんひくんもくれ事  
一百

一百一

うんひくんもくれ事  
一百二

一百三

うんひくんもくれ事  
一百四

一百五

うんひくんもくれ事  
一百六

一百七

うんひくんもくれ事  
一百八

一百九

うんひくんもくれ事  
一百十

一百十一

うんひくんもくれ事  
一百十二

一百十三

うんひくんもくれ事  
一百十四

一百十五

うんひくんもくれ事  
一百十六

一百十七

うんひくんもくれ事  
一百十八

一百十九

うんひくんもくれ事  
一百二十

一百二十一

うんひくんもくれ事  
一百二十二

一百二十三

うんひくんもくれ事  
一百二十四

一百二十五

うんひくんもくれ事  
一百二十六

一百二十七

うんひくんもくれ事  
一百二十八

一百二十九

うんひくんもくれ事  
一百三十

一百三十一

うんひくんもくれ事  
一百三十二

一百三十三

うんひくんもくれ事  
一百三十四

一百三十五

うんひくんもくれ事  
一百三十六

一百三十七

うんひくんもくれ事  
一百三十八

一百三十九

うんひくんもくれ事  
一百四十

一百四十一

うんひくんもくれ事  
一百四十二

一百四十三

うんひくんもくれ事  
一百四十四

一百四十五

うんひくんもくれ事  
一百四十六

一百四十七

うんひくんもくれ事  
一百四十八

一百四十九

うんひくんもくれ事  
一百五十

一百五十一

うんひくんもくれ事  
一百五十二

一百五十三

うんひくんもくれ事  
一百五十四

一百五十五

うんひくんもくれ事  
一百五十六

一百五十七

うんひくんもくれ事  
一百五十八

一百五十九

うんひくんもくれ事  
一百六十

一百六十一

うんひくんもくれ事  
一百六十二

一百六十三

うんひくんもくれ事  
一百六十四

一百六十五

うんひくんもくれ事  
一百六十六

一百六十七

うんひくんもくれ事  
一百六十八

一百六十九

うんひくんもくれ事  
一百七十

一百七十一

うんひくんもくれ事  
一百七十二

一百七十三

うんひくんもくれ事  
一百七十四

一百七十五

うんひくんもくれ事  
一百七十六

一百七十七

うんひくんもくれ事  
一百七十八

一百七十九

うんひくんもくれ事  
一百八十

一百八十一

うんひくんもくれ事  
一百八十二

一百八十三

うんひくんもくれ事  
一百八十四

一百八十五

うんひくんもくれ事  
一百八十六

一百八十七

うんひくんもくれ事  
一百八十八

一百八十九

うんひくんもくれ事  
一百九十

一百九十一

うんひくんもくれ事  
一百九十二

一百九十三

うんひくんもくれ事  
一百九十四

一百九十五

うんひくんもくれ事  
一百九十六

一百九十七

うんひくんもくれ事  
一百九十八

一百九十九

うんひくんもくれ事  
一百二十

一百二十一

うんひくんもくれ事  
一百二十二

一百二十三

うんひくんもくれ事  
一百二十四

一百二十五

うんひくんもくれ事  
一百二十六

一百二十七

うんひくんもくれ事  
一百二十八

一百二十九

うんひくん



之りんのきひもんかぎけの傳ふゆるをてかまひくせ  
やとらとくにあひのむなしけひきぬつまんうんそんまひく  
きあうり傳直百萬金といひぢんのひらわみがうるきく  
にひきかきらくわくひひきうきくべきに石のあとひくへん  
りす直百萬ある。傳直ひきまくひんうしのとくも直家子  
せきのそきことありひきまくひんうすとあひだれをもと  
うんめんとまひじ三受此法教のうがよろあり教説と法説と  
まひせにあう全般本旨のまひかくとくとくのうをう  
角とくとくは申あいのりとねくはやとあうり法説よほりあ  
うくわくがのうをくふさのけたを事記すとくとくとく  
ひきまくひんうしてあひたひくとくとくとくとくとく  
教説とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
教説とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ゆふとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
せられまきとくとくとくとくとくとくとくとくとく

五 四

無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故受此理  
珞 びんはらしてやうと 余時佛告觀世音菩薩當愍此  
無盡意菩薩及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓  
羅緊那羅摩賾羅伽人非人等故受是瓔珞 びんを  
ひらりと拂ひやすやむしんいの爲志とひ又にあハ勢すま  
そくらうとひつとくらうがよもじうへとおきをくゆうる  
をうりがむけのうりきう  
即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受

其理瑣分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉多寶  
佛塔  
無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於娑婆世界  
無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於娑婆世界  
八余時無盡意菩薩以偈問曰

九世尊妙相具我今重問彼佛子何因緣名爲觀世音  
具足妙相尊偈答無盡意汝聽觀音行善應諸方所  
弘誓深如海歷劫不思議侍多千億佛發大清淨願  
我爲汝畧說聞名及見身心念不空過能滅諸有若  
愚妄相者傷害莫奉主事人所生者亦復無量無數  
下凡人等一切有情皆蒙受福無量無邊無量無窮  
弘誓深如海發大清淨願我爲汝畧說聞名及見身

おんを少す分と多くとらそりんのあくを寧どのがんとあくと  
やくしまれゆよがめは異形と死をうけゆよひ  
がいあり實あひ改氣し食不寔也徳滅後が衰えんと  
死えまうわひをもうとさくめとせきの者とめを  
かめんと

三十  
假使興害意推落大火坑念彼觀音力火坑變成池

四十一  
或漂流巨海龍魚諸鬼難念彼觀音力波浪不能沒

四十二  
或在須彌峯爲人所推墮念彼觀音力如自虛空住

四十三  
或被惡人逐墮落金剛山念彼觀音力不能損一毛

四十四  
或值怨賊繞各執刀加害念彼觀音力咸即起慈心  
四十五  
或遭王難苦臨刑欲壽終念彼觀音力刀尋段段壞

四十六  
或遭王難苦臨刑欲壽終念彼觀音力刀尋段段壞



アリハキスモシテアシタノヤハトトモシカニ

びのんがまへのせひのかゆのうとちもとかゆり

咒啞諸毒藥所欲害身者念彼觀音力還著於本人

れりんかん、めぐら、ひんじゆうがくあんじゆめせんじゆくおこ  
かみ、あきらめりやう

可惡已病利毒龍誰與綠急彼春言力肿恐不敢害  
可惡已病利毒龍誰與綠急彼春言力肿恐不敢害

若惡獸圍繞 利牙爪可怖  
念彼觀音力 疾走無邊方

まことに、お前は、おれの娘の夫だよ。おれが、おれの娘の夫だよ。

さん様せばらうとすのちのとよべとく

蜘蛛及蝴蝶 氣盡烟少燃 念彼樹皆崩 災難自迴去

雲雷鼓剝牛電辟晝澍大雨念彼觀音力應時得消散

ひよんはけうらせうんせうをうのみとひんせうまれいじわとう

主波因色無量告誥觀音妙智力能救世間苦

世を離れて死んでゐるのではなくて、國がその本質を失つてゐるのを知ら  
ずしては、我故に死んでゐるのを心から救へうとおもひます。

具足神通力廣修智方便十方諸國土無刹不現身

七  
くらんのうふすのせひれはかうもくみまくまくと辛三才のんとまく  
とうこくはせがとももよもよもよの所まくまくとじんとまくよもよもまく  
ちんとまくせりを磨院を方便とひへせりかくれけくのう  
種種諸悪趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅

種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅  
びんのふくろのものよひ種、形を従事のうんせんとももとて、従  
事がうくにあらわのうへうちもれはう、あくまうこ前まへく、従事をじし  
のうとうとみさ従らんのうとあううりはきひんかくくせらんもえんと  
のうゆくやうえうううそくにわきうこ是が前まへくのうこうをすううゆくこ  
真觀清淨觀 廣大智慧觀 非觀及慈觀 常願常瞻仰

ひきのひきうんどん自行のうそこれの音うもひたひみの毛色と  
ひえ、平戸のとたハ用とうとシびれのよめとら、室就役於年  
櫻弓三月こもれとひく宣教すわうとひきんのひハ後は、年自體れ  
と初解ウトテテアモドリコシモウラモの事しきと清便歎とく

無垢清淨光 慧目破諸闇 能伏災風火 普明照世間  
ひくのんのんハ化他のそくこそを源源渾沌もひくのんのんをもすうふうと  
云々をあらわすよわんといふ移のりんのうめとすとつよ 三三 挑拔不見  
はくはくといふされしふ言の傳うれいえれいえれいえれいえれいえれい  
風ぢら三寢のう、劫あめにち算から初宿まことまことみがはき二宿  
まことまことかのうくのうまのうかうせんさんさんともどもよどもども  
しきゆくよのうくよのうくよのうくよのうくよのうくよのうくよのうく

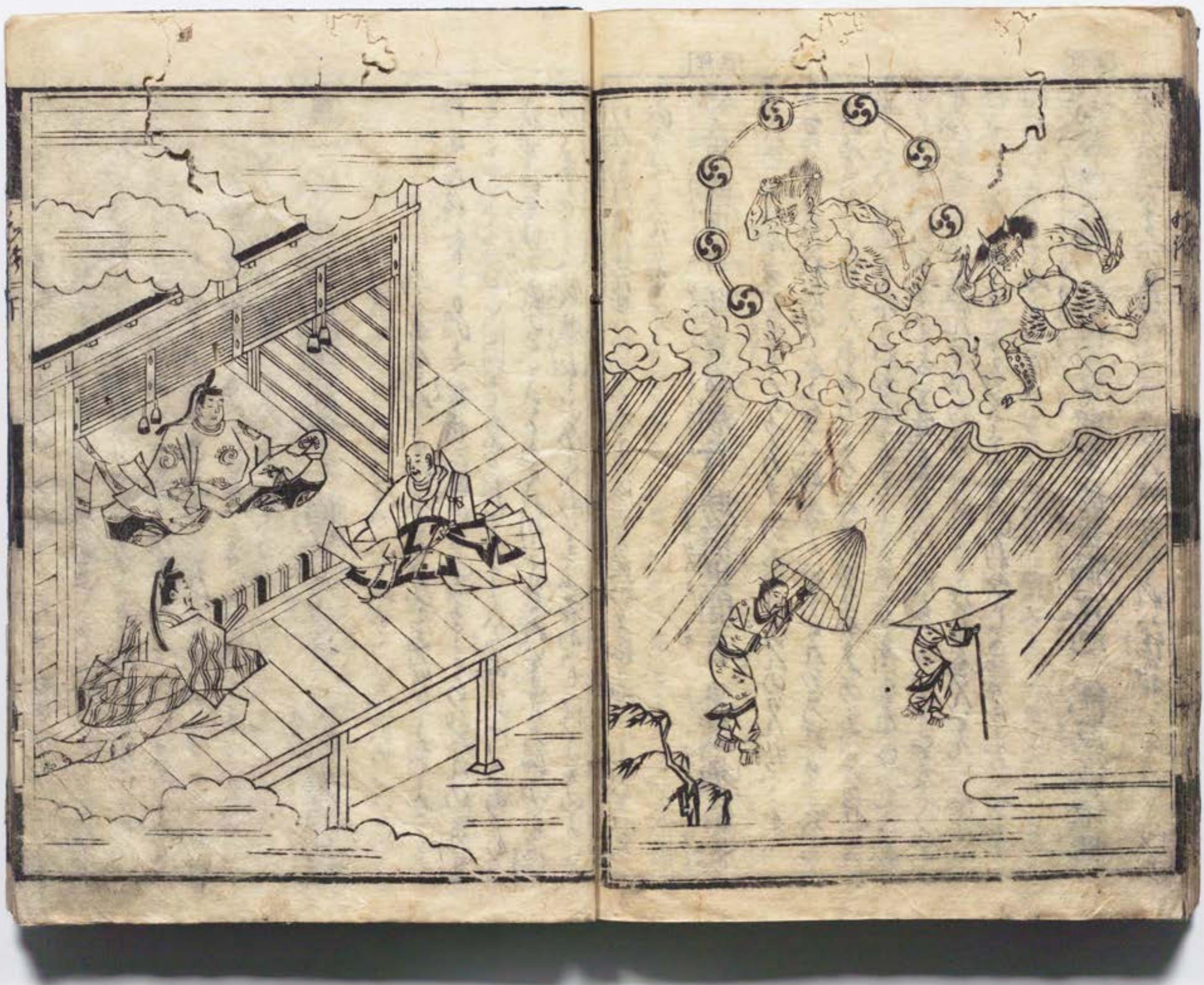
をもせりんのとくふてあれり

一相 悲體飛雷震慈意妙大雲  
澍耳露法雨滅除煩惱燭  
頭の心りきんとん三業れどすのわるう懸神とい身業のまゆう  
えん心尾をまひとりて神うきよすういらいきをひきをまつり  
そハラハア財公無事のふりとびとわらわらくちよとがれ  
くそみらいあんくはにまきをあいめしりんか業利やのう  
きうあひまゆうすりめをすくへりかのうとくのひろくせんをがり  
よほうううちあんちかううとハ星業のまゆうせらわれわ  
とあくてもあくやうれがんのばれりとまゆううきはすんの  
とあもともあうり

二相 訚訟經官處怖畏軍陣中念彼觀音力衆怨悉退散  
うんとん汝神をへりきうきうううへんを向ゆへとおとお  
うひとこえあうり

三相 妙音觀世音梵音海潮音勝彼世間音是故須常念  
うんの心しづきあむれ事うくよすりまのふうれくうのりんにそくわ  
もそりうむもハ本來のうみうじゆうじゆうとくとんわまなせすうえをち  
くりよやうんわうらやをあきうこうとくんとんわうのうよをれがん  
ゆうとわくとくふくまちゆうじゆうふくとくふくとくふくとくふくとく  
すくはくのうよ空音と覺音としの假音とくいとくいとくいとくい  
かくあくとくひせりんとくいとくいとくいとくいとくいとくい  
れいとくいとくいとくいとくいとくいとくいとくいとくいとく  
自

四相 念念勿生疑觀世音淨聖於苦惱死厄能爲作依怙  
びりんのぶまのせられくおんとん汝神は信頼とのほら



具一切功德慈眼視衆生福聚海無量是故應頤禮

尔時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若有衆生  
聞是觀世音菩薩品自在之業普門示現神通力者  
當知是人功德不少けりんのらへすれどんごんとまことく  
とおゆくあらがくからんくわんどんのそや  
とおゆくあらがくからんくわんどんのそや



わう  
ふくらひのあがみけよまとうにまとうれきちの見え  
あるはるかくまほくまれり

あらわのう

大學生

八日  
丁巳

千人日  
西行

卷之三

大業卷之五

卷之三

卷之三

海日  
卷之二

卷之三

卷之三

卷之三

久  
元

馬喰町二丁目 西村屋與八板

大傳馬町三丁目

正本屋

鱗軒屋孫兵備板

